

優良農家の紹介

起業から企業へ ～企業組合彩雲の取組～

彩雲加工グループは、2004年4月にオープンした都市と農村の交流拠点「山田錦の館」（三木市吉川町）で、農産加工品の製造・販売をしてきた。将来を見据えた中で、経営の規模拡大や人的確保等に備え、組織の基盤力アップに向けて、2007年1月に企業組合彩雲として法人化に至った。

企業組合彩雲の概要（2008年3月）

- 構成員：組合員11名、パート11名
- 年齢構成：30～60代
- 販売品目：そうざい類（すし類含む）、もち類、パン類
- 売上高：約6,800万円（2007年）

法人化までの軌跡

彩雲加工グループは、「山田錦の館」の加工施設活用にあたり、吉川町（旧美囊郡）の公募で集まった特産開発講座の卒業生で結成したグループである。2004年4月の館のオープンから、みそ、そうざい、もち、パンの4部門に分かれ、独立採算性で活動してきた。

丸2年がすぎ、順調に売上げを伸ばしてきたこともあり、経営の合理化・効率化、将来への展望を検討した結果、そうざい・もち部門による企業組合を立ち上げた。

商品への思い

「大切な人に届けたい吉川の味」をモットーに、当初から活動し、家族みんなで“食”を囲む風景が、商品開発のイメージにある。「若い人とお年



図1 知事賞を受賞した「のし餅」

寄りが一緒に囲む鍋を」と誕生したのが、2種の味が入る「のし餅（ゆず&とうがらし）」である。これが、2007年に知事賞を受賞した。

法人化の効果

（1）売上アップ

経営の合理化、作業の効率化等の効果により、法人化前後で比較可能な、そうざい・もち部門で見ると年間約1,200万円のアップにつながった（図2）。また、2007年4月からは、パン類の製造販売が企業組合に移り、年間総売上は6,800万円となった。

（2）労働生産性向上

部門ごとにメンバーは不変であったが、組合の発展を横断的な視点で考えて行くために、「人事異動」も取り入れた。このことで、作業動線の変更による効率化や、新商品の誕生、組合内の風通し等の効果が現れている。

組織の存続への責任

現在活躍しているメンバーの能力を更に引き出し、ひとり一人の努力にどう報いるか。これから組織を支えていく人材をどう集め、育てていくか。これらの答えを見いだしつつ、彩雲の企業価値がますます高まるよう、普及センターも支援していきたい。

秋月 麻美（三木農業改良普及センター）
（問い合わせ先 電話：0794-82-3164）

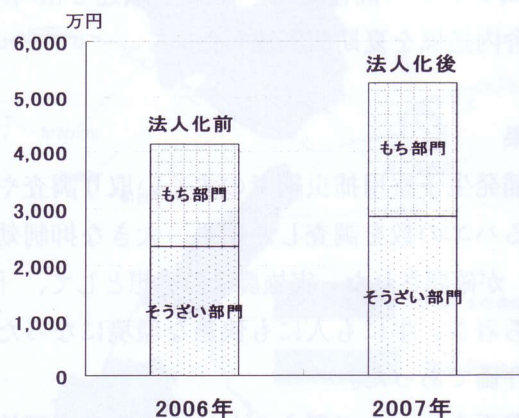


図2 法人化前後の販売高推移（そうざい・もち部門計）

ひょうごの農林水産技術 No.157

平成20年5月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400